

心で感じる鮮やかな音楽の世界
 ～音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

東串良町立東串良中学校 教諭 馬場 美幸

目 次

- 1 はじめに・・ 1
- 2 研究主題・・ 1
- 3 研究主題の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 5 研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 6 研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) デジタル教科書やタブレットの活用
 - (2) ワークシートの活用
 - (3) 振り返りカードの活用
 - (4) グループ活動の工夫
- 7 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 8 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

〔引用・参考文献〕

・『混声合唱曲集 TOMORROW』	教育芸術社	令和3年
・『中学校学習指導要領解説 音楽編』	文部科学省	平成30年
・『鑑賞授業の事例集』	栗飯原 喜男	教育芸術社 令和4年
・『音楽の授業づくり』	加藤 徹也・山崎 正彦	明治図書 令和2年
・『中学音楽が魅力的に変わる!』	原田 徹・酒井 美恵子	明治図書 平成22年
・『音楽の鑑賞指導 中学校編』		音楽鑑賞教育振興会 平成5年
・『これでできる! 音楽科の授業創り』	清水 宏美	音楽之友社 令和2年
・『中学生の音楽 2・3上 研究編』		教育芸術社 令和3年
・『音楽科教師のための授業づくりスキル』	大熊 信彦・酒井 美恵子	明治図書 令和3年
・『大隅学力向上リーフレット 令和4年度版』		大隅教育事務所 令和4年
・『授業改善のポイント』		鹿児島県教育委員会 平成28年

(ワークシート資料) 「音楽のキャンパス①(教育芸術社)」, 「音楽 表現と鑑賞の資料(正進社)」

1 はじめに

「かけがえのない宝物になる」、3年生と授業で歌った合唱曲「絆」の歌詞の一部である（山崎朋子作詞「絆」より引用）。この3年生と一緒に私自身も、東串良中学校に入学し、3年目になる。人は何かを感じることで、心が豊かになっていくのだと思う。「いつか若さを失くしても心だけは」（荒木とよひさ作詞「心の瞳」より引用）いつまでも「音楽を感じる心」を大切にしていきたい。

これまで生徒たちと過ごした日々を振り返り、生徒たちの成長を思い出しながら、この実践記録をまとめていきたいと思う。

2 研究主題

心で感じる鮮やかな音楽の世界
～音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

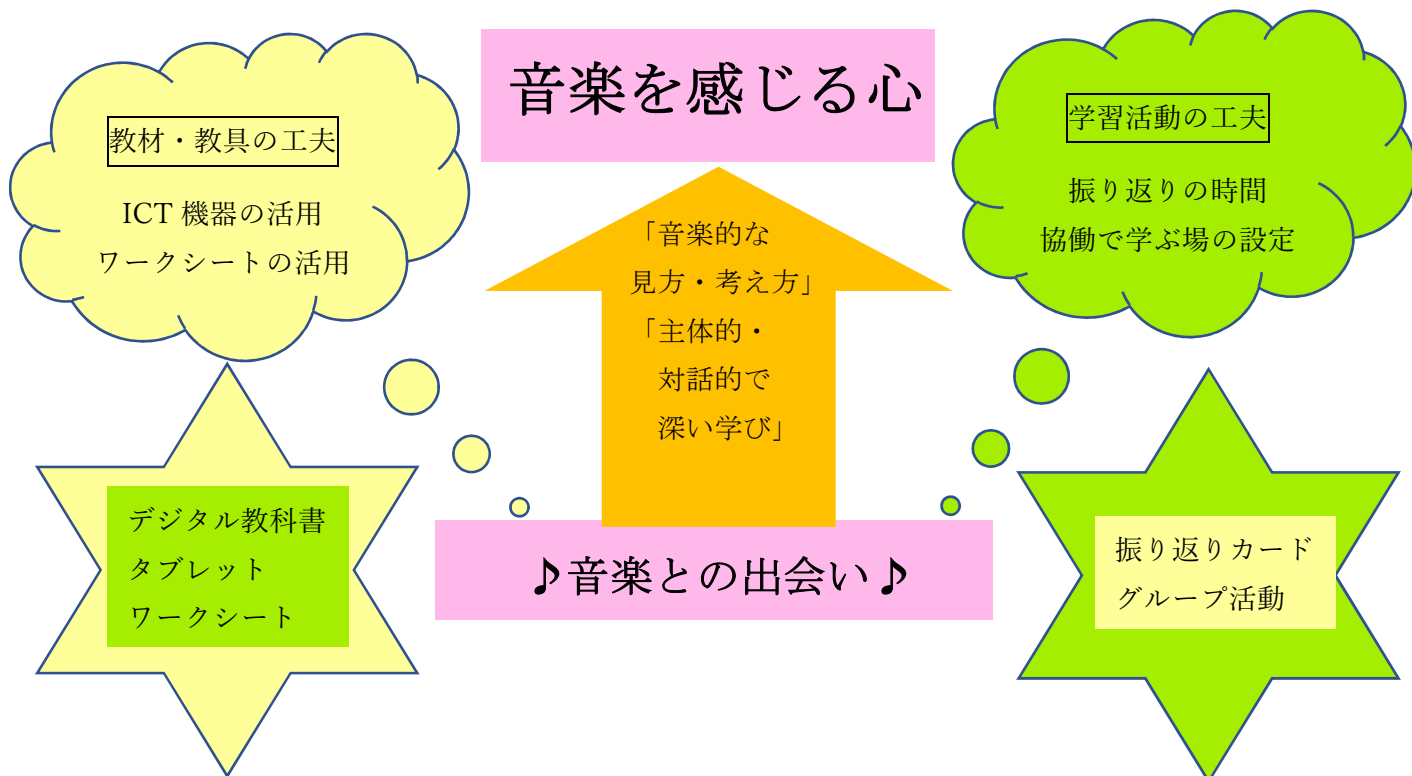
3 研究主題の理由

令和3年度から新学習指導要領が全面実施となった。学習指導要領の中に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について挙げられている。目の前にいる生徒たちに目を向けてみると、基礎的・基本的な知識や技能の定着に課題があると感じる。令和を生きる生徒たちに「学びの音楽」を生涯にわたって身に付けていけることを日々目指している。以上のことから、本研究主題を設定した。

4 研究の仮説

仮説

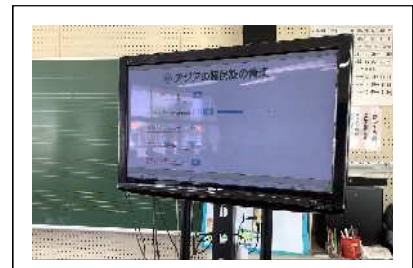
ICT機器の効果的な活用やワークシートの活用を行い、学習活動の工夫（振り返り、協働で学ぶ）をすることで「主体的・対話的で深い学び」ができるのではないか。



5 研究の方法

仮説への追究をするために、以下の取組を行った。

- (1) デジタル教科書やタブレットの活用
- (2) ワークシートの活用
- (3) 振り返りカードの活用
- (4) グループ活動の工夫



【写真1：デジタル教科書】

6 研究の実際

- (1) デジタル教科書やタブレットの活用

実践1 1年生「アジアの諸民族の音楽」の学習

デジタル教科書（写真1）を活用し、音源だけで音楽の特徴を捉える学習を行った。音だけ聴くことで、いろいろな想像をしながら生徒が主体的に鑑賞することができる。

カッワーリーの音楽のリズムに合わせて、生徒が体を上下に動かしながら鑑賞（写真2）している姿が印象的であった。

初めて出会う音楽でも「人の気持ちを高めてくれる音楽」があるのだと改めて感じた。

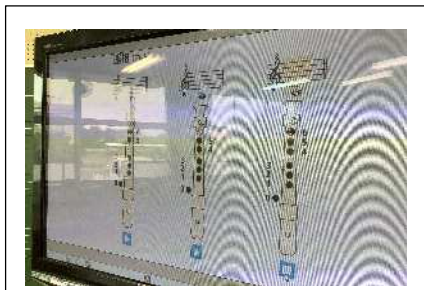


【写真2：タブレット活用】

実践2 1年生「アルトリコーダー」の学習

〔主な学習活動の流れ〕

範唱を聴く→階名を書く→階名で歌う→運指だけでやってみる→実際に吹いてみる→練習（個人）→練習（グループ）→全体で合わせて演奏する。



【写真3：運指が視覚的に示され、実際に音も出る】



【写真4：タイマーの活用】

生徒たちに、練習時間の見通しをもたせるようにした。（写真4）



【写真5：デジタル教科書への書き込み】

デジタル教科書を活用し、書き込みを行った。（写真5）間違えやすいリズムや気を付けてほしいところに印を付けることで、練習の際にも生徒が取り組みやすいようにした。

グループでの練習の中で、自分たちで階名を歌いながら、音を出さずに指だけで、練習している。よりよい方法を工夫しながら、練習に取り組んでいた。（写真6）

「さん、はい」



【写真6：グループ練習の様子】



【写真7：拍手する様子】

できたときに「おお。」と言いながら、お互いに拍手をする姿が見られ、とても温かい気持ちになった。(写真7)

この授業の中での、生徒たちの大きな成長である。

音楽室で「音楽の授業をする意義」や「音楽室でしかできない授業」なのかもしれない。

デジタル教科書に運指も示されるので、リコーダーが苦手な生徒は、テレビ画面を見て確認してもよいことを伝えた。(写真8)

また、今後の生徒の成長を見据え、諦めないことの大切さも伝えた。



【写真8：生徒の様子】



【写真9：みんなで合わせている様子】

授業に真剣に取り組んでいる生徒たちである。(写真9)
音楽の授業では、音を媒体とするコミュニケーションが行われる。音楽は一人でも楽しむことはできる。みんなで合わせたり、みんなで演奏したりすると、「もっと楽しい!」ということを実感してくれたら嬉しい。

実践3 「バーチャルピアノ」を活用した創作の学習

タブレットに入っているアプリでは、階名が示されていないのでなかなか鍵盤の位置と階名が一致しない生徒にとっては、演奏することが難しいと感じる様子が見られていた。

昨年度、アプリを活用しながら、生徒がもっと取り組みやすい方法はないかと模索していた。

Web上の「バーチャルピアノ」(写真10)は、鍵盤に階名を表示することもできる機能がある。生徒たちにも分かりやすかったのではないかと思う。

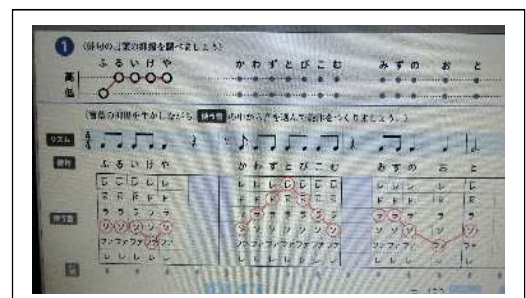
今年度は、「バーチャルピアノ」を活用して、3年生の創作の授業を行った。



【写真10：バーチャルピアノ】

創作の手順

- 1 説明を聞く。(写真11)
- 2 音を選んでつなげてみる。(写真12)
- 3 演奏してみる。適宜修正をしてもよい。(写真13)
- 4 楽譜に記す。
- 5 練習する。(写真14)
- 6 グループで発表する。
- 7 作品を撮って、ロイロノートで提出する。(写真16・17)



【写真11：生徒に例を示したもの】



【写真 12：音を選んでしている様子】



【写真 13：旋律を書き換えている様子】

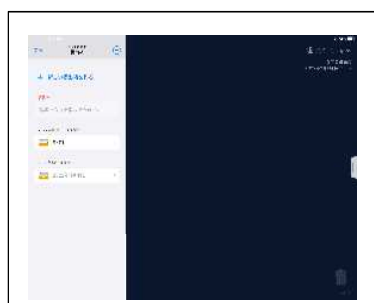


【写真 14：自分で演奏している様子】

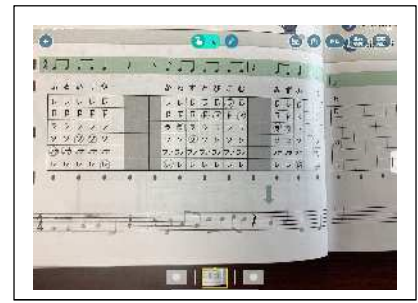
普段なかなか学習に意欲的に取り組むことが難しい生徒もいるが、集中して取り組んでいた。私自身、タブレットに感謝の気持ちを伝えたいほどであった。タブレットは便利な文房具である。



【写真 15：グループでの発表】



【写真 16：提出箱】



【写真 17：生徒が提出した作品】

実践 4 音楽アプリ「GarageBand」を活用した創作の学習

このアプリは、キーボードやドラム、ギター、歌の録音、作曲など音楽に関する機能がたくさん入っていて、操作も比較的簡単にできる。タップすることで簡単に音が出て、いろいろな楽器演奏が可能である。また、いろいろな音色を選べることも魅力である。生徒たちに好きな音色を選択させ、演奏させた。



【写真 18：リズムを手で叩いて合わせている様子】



【写真 19：作ったリズムをアンサンブルしている様子】

それぞれが作ったリズムを1小節遅れで順に打って、音の重なりを楽しんだ♪

実践 5 録画機能を利用した「赤とんぼ」の学習

〔学習活動の主な流れ〕

1回目「赤とんぼ」を歌う（写真 20）→動画を見て改善点を見付ける（写真 21）→2回目「赤とんぼ」を歌う（写真 22）

姿勢や教科書の持ち方や声の大きさの表現についても変容が見られた。深い学びへとつながっていくものだった。



【写真 20: 1 回目の歌っている様子】 【写真 21: 動画をみんなで見ている様子】 【写真 22: 2 回目の歌っている様子】

(2) ワークシートの活用

実践 6 学びの窓：「思考・判断・表現」の部分を中心に掲示をした。生徒の見本を示すことで掲示された生徒たちは自信をもつことができる。書くことに苦手意識をもっている生徒については、このように書いたらよいのだという理解につながる。学年ごとに定期的に貼り替えている。

授業で使った
ワークシート



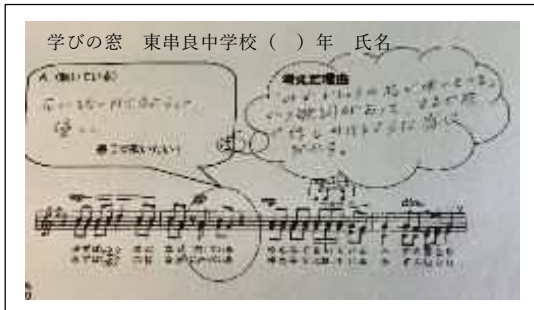
【写真 23 : 1 年生「春」】



【写真 24 : 2 年生「夏の思い出」】



【写真 25 : 3 年生「花の街」】



【写真 26: 学びの窓 2 年生「夏の思い出」】



【写真 27: 休み時間に他の学年の作品を見ている様子】

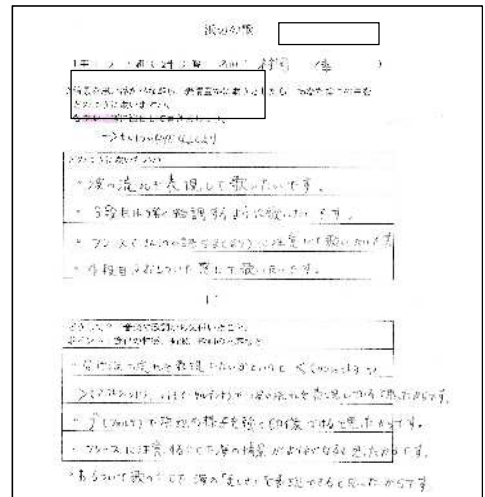
「ああ。2 年生の
ときに学習した
内容だな。なつか
しいな。」

実践 7 1 年生「浜辺の歌」の学習

情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌うとしたら、どのように歌いたいかを考えさせた。

その際、その理由を明確にさせるように、ポイントを示した。

どうして？（音楽や歌詞から気付いたこと）
ポイント：旋律の特徴、強弱、歌詞の内容など



【資料：「浜辺の歌」生徒の理由】

プリントを回収し、生徒の考えを読んでいると、教師が言ったことを蛍光ペンでマーカーし、メモをしていることに気付いた。主体的な学びが見えた。

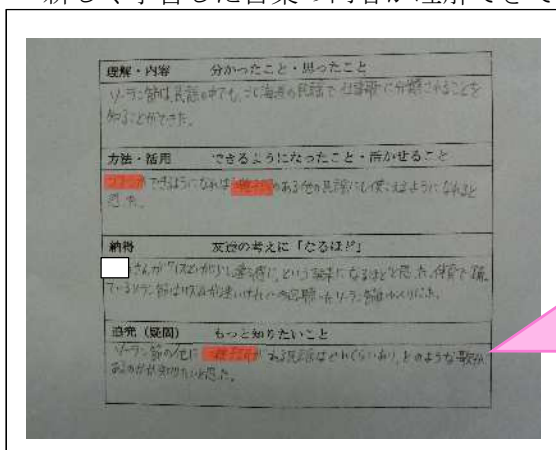
(3) 振り返りカードの活用

1年目は、実践することができなかったが、2年目に実践してみた。文字で残すことで、生徒たち一人一人の思っていることや考えがよく分かるようになった。3年目は、振り返りがしやすいように「キーワード」を示す取組を行ってみることにした。

実践8 1年生「日本の民謡」の学習

キーワード：囃子詞 コブシ

新しく学習した言葉の内容が理解できていないと、振り返りを書くことが難しい。



書き方については、全学年最初の授業で配付し、説明をしている。

4つの観点のうち、1つ以上は書くことを約束している。

【写真28：2年生「交響曲第5番 ハ短調」の学習】

キーワード：ソナタ形式 動機 オーケストラ 交響曲

♪振り返りカードより♪

① 理解・内容	分かったこと・思ったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・交響曲第5番 ハ短調ができた由来が分かった。 ・オーケストラで聞いたら、迫力があつた。 ・ソナタ形式によって繰り返しがあつてとてもよいと思いました。 ・今回の曲が親しまれているのは、ソナタ形式を使っているからだと思う。 ・曲には、作者の気持ちがこもっていることが分かった。 ・オーケストラの曲であんなに色々な音を出せるこの曲がすごいと思った。 	
② 方法・活用	できるようになったこと・活かせること
<ul style="list-style-type: none"> ・動機という言葉を使って批評文が書けるようになった。 ・何でそう思うのかしっかり言葉で表すことができた。 	
③ 納得	友達の考えに「なるほど」
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の情熱的という考え ・低い音が好きという考え ・「この曲は、あきなさそうな曲だと思った。」に共感した。 	
④ 追究(疑問)	もっと知りたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ベートーヴェンは何で音楽が好きなのか。 ・オーケストラの演奏は、いつ始まったのか。 	

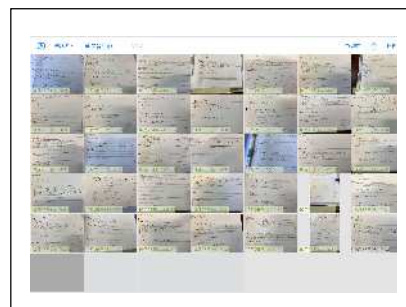
- ・「ダダダダーン」以外の動機をもっと知りたい。
- ・なぜベートーヴェンは、有名になったのか。
- ・ベートーヴェンが耳が聞こえなくなったのはなぜだろう。
- ・交響曲第6番を聞いてみたい。



【写真 29：振り返りカードを書いている様子】

振り返りの時間は、5分くらい確保するようにしている。

「振り返りカード」を記入した後、グループで交流をさせることもあった。



【写真 30：提出された振り返りカード】

(4) グループ活動の工夫

【実践 9】 1年生「赤とんぼ」の学習



【写真 31：グループでの交流】

話し合い活動の中で「質問をさせる」ことで対話が生まれ、深い学びへとつながっていく。グループでお互いの意見（考え）を聞こうとする姿勢が見られた。グループの隊形も自分たちで話し合いがしやすいように考えている。真ん中に座っている生徒が椅子を移動させ、話を聞きやすいように考えて活動している姿に感心した。(写真 31)

【実践 10】 1年生「魔王」の学習

魔王の朗読の発表で「音程を付けて歌う」工夫を行っていた。

「魔王」と「子ども」のところを工夫して歌っていた。(1組の生徒)

「魔王」のところを工夫して歌っていた。

(2組の生徒)

「今まで聴いたことのない工夫に大きな感動!!!」があった。音楽は、その場にいるからこそ味わえる臨場感や空気感がある。生徒たちと音楽を共有できる空間があった。



【写真 32】



【写真 33】

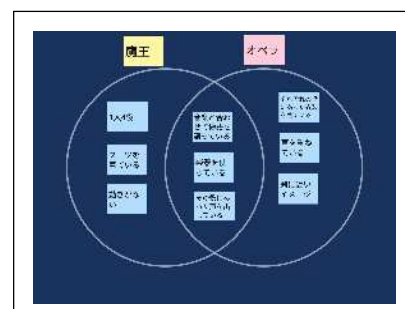
【グループごとの詩の朗読の発表の様子①②】

【実践 11】 オペラ「アイダ」の学習での取組



左【写真 34：タブレットを用いて考えているところ】

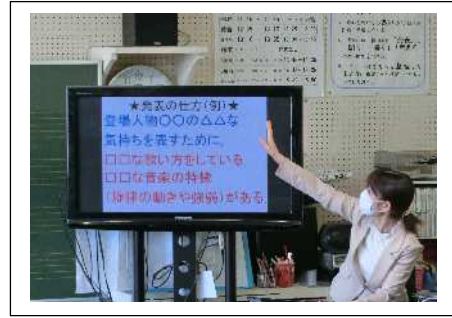
右【写真 35：「魔王」と「オペラ」の共通点と相違点について個人でまとめたもの】



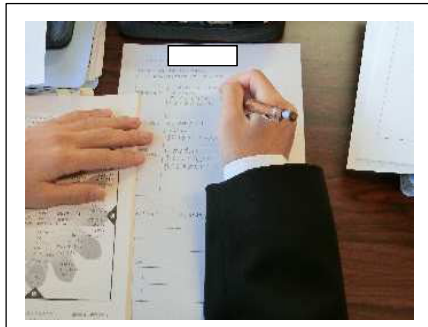
研究授業での様子（令和4年11月16日実施）



【写真 36: ICTを用いて前時の復習をしているところ】



【写真 37: 発表の仕方について例を示しているところ】



【写真 38: 個人でワークシートに記入しているところ】



【写真 39: グループでまとめたワークシートを提出するところ】



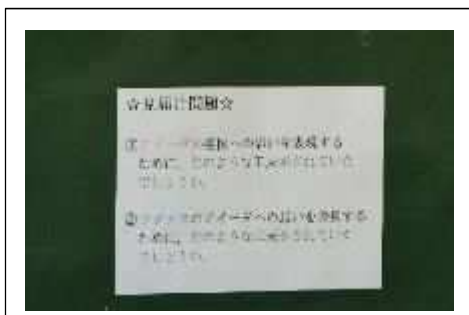
学習の流れ

グループでの
役割分担

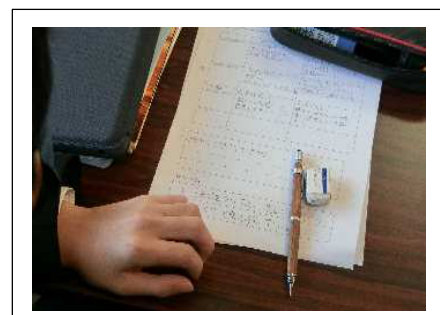
【写真 40 : 授業後の板書】

見届け問題

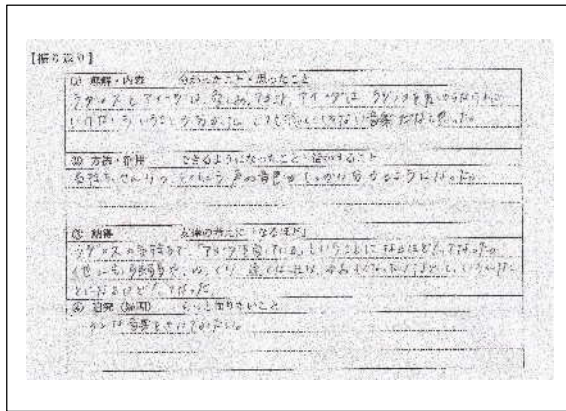
見通しをもたせるように学習の流れを提示した。そして、グループでの役割分担を示した。また、見届け問題に挑戦してみた。



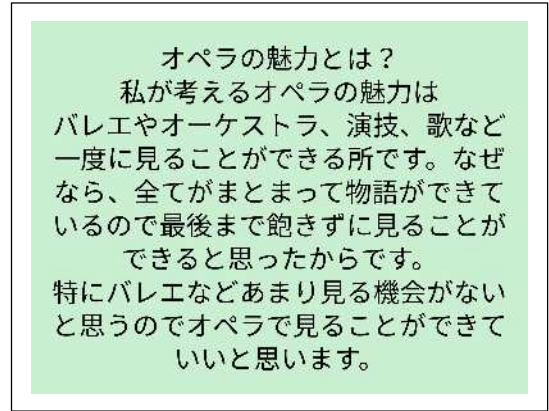
【写真 41 : 見届け問題】



【写真 42: 見届け問題を解いているところ】



【写真 43：振り返りカード】



【写真 44：研究授業の次時でオペラの魅力について生徒がカードでまとめたもの】

7 成果と課題

〈成果〉

- 振り返りにおいて、「キーワード」を示すことで、本時で身に付けてほしいことを明確にすることができ、深い学びにつながっていった。
- タブレットを使用することで、生徒たちの興味・関心が高まり、集中して取り組む姿が見られ、主体的で「個別最適な学び」になっていた。
- グループ学習では、友達との対話を通して考えが深まり、協働的な「深い学び」になった。

〈課題〉

- タブレットに頼りすぎてしまう一面もあるので、実際に生徒に書かせて力を付けさせたい場面とタブレットを使用する場面を明確にする必要がある。
- ICTの不具合が生じてあせってしまうことがあるので、代替策を考えておく必要がある。
- ロイロノートを活用し、音声も録音できるので、今後技能のテストの際にも活用していきたい。また、音楽アプリ「GarageBand」での録音も行うことで、評価に生かせるようにしていきたい。そのために、私自身も使い方について学ぶ必要がある。

8 おわりに

「心のままに」昨年度より成長できた自分があるだろうか。この実践記録が、生徒たちとともに取り組んだ足跡となり、これからの「宝物」に、そして「財産」になっていくのだと思う。

初めて出会う教材を、教師が生徒をどのように導いていくのかが今後も私の課題である。音楽は、「時間的芸術」であるといわれる。生徒たちを「音楽の世界」に導いてあげること。生徒たちにとっては、1回きりの授業である。研究授業が特別ではなく、普段を誇れる授業を目指したいと思っている。そして何より、課題に対してしっかり向き合い、取り組んでくれる生徒たちの姿に心から感謝したい。

「きらり」と光る原石を秘めている生徒たち。その輝く瞬間に出会うことがとても楽しい。人の心は見えないけれど、一人一人の心の中に音楽への興味・関心が芽生えてくれたらいいなと思う。

来年度「東串良中学校での卒業アルバム」の最後のページには、どんなページが描かれていくのだろう。